

製品名: サイクリン A ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab09577**

研究使用のみ

概要

| | |
|--------|--|
| 説明 | ウサギポリクローナル抗体 |
| 宿主 | うさぎ |
| 応用 | WB,IHC,ICC/IF,ELISA |
| 反応性 | 人間、マウス、ラット、サル |
| 標識 | 非共役 |
| 修飾 | 未修正 |
| アイソタイプ | IgG |
| クローン性 | ポリクローナル |
| 形態 | 液体 |
| 濃度 | 1mg/ml |
| 保存 | アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送 | 氷袋 |
| バッファー | 50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。 |
| 精製 | アフィニティー精製 |

応用

| | |
|------|--|
| 希釈倍率 | WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000 |
| 分子量 | 53kDa |

抗原情報

| | |
|--------------|--|
| 遺伝子名 | CCNA1/CCNA2 |
| 別名 | CCNA1; Cyclin-A1; CCNA2; CCN1; CCNA; Cyclin-A2; Cyclin-A |
| 遺伝子 ID | 8900/890 |
| SwissProt ID | P78396/P20248 |
| 免疫原 | 抗血清はヒトサイクリン A 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 221-270 |

背景

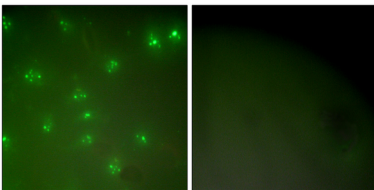
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、高度に保存されたサイクリンファミリーに属し、そのメンバーは細胞周期を通してタンパク質存在量の劇的な周期性によって特徴付けられる。サイクリンは CDK キナーゼの調節因子として機能する。異なるサイクリ

はそれぞれ異なる発現および分解パターンを示し、各有糸分裂イベントの時間的調整に寄与する。この遺伝子によってコードされるサイクリンは、精巣と脳、およびいくつかの白血病細胞株で発現することが示されており、主に生殖細胞系列の減数分裂細胞周期の制御に機能すると考えられている。このサイクリンは CDK2 キナーゼと CDC2 キナーゼの両方に結合し、これら 2 つのキナーゼ活性 (1 つは S 期に、もう 1 つは G2 期に現れる) を生じ、細胞周期の別々の機能を制御している。このサイクリンは、Rb ファミリータンパク質、転写因子 E2F-1、p21 ファミリータンパク質などの重要な細胞周期調節因子に結合することがわかった。多発生段階:発現は G1 期初期に増加し、S 期および G2/M 期に最高レベルに達します。機能:G1/S 期(開始)および G2/M 期(有糸分裂)の遷移における細胞周期の制御に関与している可能性があります。主に生殖系列の減数分裂細胞周期の制御に機能し、さらに一部の体細胞の有糸分裂細胞周期の制御にも機能する可能性があります。類似性:サイクリンファミリーに属します。類似性:サイクリンファミリーに属します。サイクリン AB サブファミリーです。サブユニット:CDK2 および CDC2 タンパク質キナーゼと相互作用して、セリン/スレオニンキナーゼホロ酵素複合体を形成します。サイクリンサブユニットは、複合体に基質特異性を付与します。CDK4 および CDK5 には結合しません (in vitro)。サイクリン A1-CDK2 複合体は、転写因子 E2F-1 および RB タンパク質と相互作用します。CDK2、CABLES1、CCNE1 との複合体として存在する (類似性による)。INCA1 および KLHDC9 と相互作用する。組織特異性:精巣で非常に高いレベル、脳では非常に低いレベルに存在する。骨髄性白血病細胞株にも存在する。、

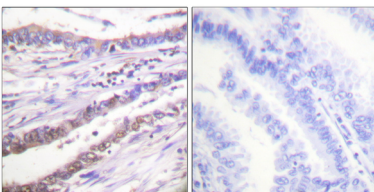
研究分野

AMPK

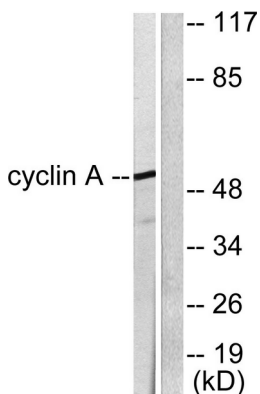
画像データ



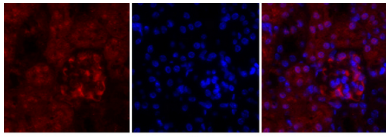
サイクリン A 抗体を用いた COS7 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした状態。



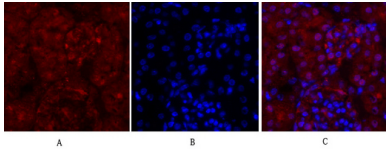
サイクリン A 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト肺癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした状態。



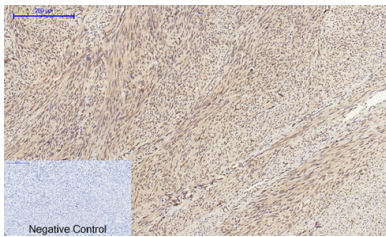
サイクリン A 抗体を用いた COS7 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロックされている。



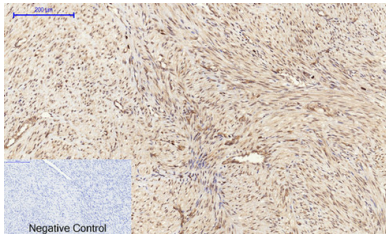
マウス腎臓組織の免疫蛍光染色。1, サイクリン A ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の融合。



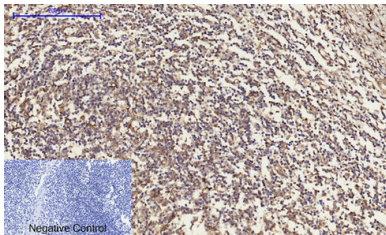
マウス腎臓組織の免疫蛍光染色。1, サイクリン A ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の融合。



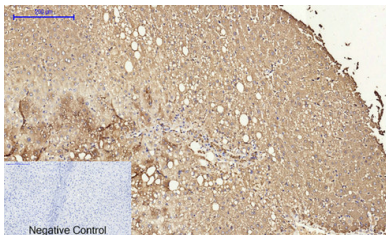
パラフィン包埋ヒト子宮組織の免疫組織化学染色。1. サイクリン A ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ヒト子宮癌組織の免疫組織化学染色。1. サイクリン A ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ヒト扁桃組織の免疫組織化学染色。1. サイクリン A ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ヒト肝組織の免疫組織化学染色。1. サイクリン A ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。